

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	ダイコート
会社	日本曹達株式会社
住所	〒100-8165 東京都千代田区大手町2-2-1
担当部門	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-3245-6178
FAX 番号	03-3245-6084
緊急連絡先情報	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-3245-6178
夜間緊急連絡先	高岡工場RC推進部/警備室(夜間・休日)
電話番号	0766-26-0255
SDS 作成日	2006年11月07日
SDS 改訂日	2020年06月05日(07版)

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

爆発物	分類対象外
可燃性又は引火性ガス	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性又は酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分3
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性	分類対象外
急性毒性：経口	区分外
急性毒性：経皮	区分外
急性毒性：吸入(ガス)	分類対象外
急性毒性：吸入(蒸気)	分類できない
急性毒性：吸入(粉塵・ミスト)	分類できない

皮膚腐食性又は皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分1 A
生殖毒性	区分1 A
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分2（中枢神経系、視覚器、全身毒性）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（肝臓）、区分2（中枢神経系、視覚器、心血管系）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境有害性（急性）	区分2
水生環境有害性（長期間）	区分2

【ラベル要素】

絵表示（GHS JP）



注意喚起語 危険

危険有害性情報(物理化学的危険性)

引火性液体及び蒸気

危険有害性情報(健康有害性)

重篤な眼の損傷

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

臓器（中枢神経系、視覚器、全身毒性）の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（肝臓）の障害

長期にわたる、又は反復ばく露により臓器（中枢神経系、視覚器、心血管系）の障害のおそれ

危険有害性情報(水生毒性)

水生生物に毒性

長期継続的影響によって水生生物に毒性

(安全対策)

予防策については、「7. 取扱いおよび保管上の注意」、「8. ばく露防止及び保護措置」を参照。

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること/アースをとること。防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

(応急措置)

応急処置については、「4. 応急処置」、「5. 火災時の処置」を参照。

皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

火災の場合：消火に粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水、等を使用すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。

漏出物を回収すること。

(保管)

保管については、「7. 取扱い及び保管上の注意」を参照

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

(廃棄)

廃棄については、「13. 廃棄上の注意」を参照。

内容物/容器を、国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名 ダイコート

化学名	CAS 番号	濃度	化学式	官報公示整理番号	
				化審法番号	安衛法番号
ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	9016-45-9	30.0%	末尾に記載	7-172 (優先評価化学物質)	なし(公表化学物質扱い)
エタノール	64-17-5	15.6 - 16.4%	C ₂ H ₅ OH	2-202	なし(公表化学物質扱い)
メタノール	67-56-1	1.6 - 2.4%	CH ₃ OH	2-201(優先評価化学物質)	なし(公表化学物質扱い)
ジアルキルスルホコハク酸ナトリウム塩	577-11-7	9.0%	—	(2)-1620, (2)-1623	2-(4)-384, 8-(2)-2462

《水等》

含有量

42.2～43.8 %

4. 応急措置

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。多量の水と石鹸で洗うこと。症状が出た場合には、必要に応じて医師の処置を受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

火災時の措置

- 1) 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- 2) 消火作業は、可能な限り風上から行う。
- 3) 関係者以外は安全な場所に退避させる。
- 4) 周囲の設備などに散水して冷却する。
- 5) 消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないような適切な措置を行う。

適する消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水、等

不適な消火剤

情報なし

火災時の特定危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素、硫黄酸化物等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

消火を行うものの保護

消火作業の際には、適切な呼吸用保護具を着用し、煙やガスの吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

漏出時の措置

- 1) 作業の際は、保護具(手袋・眼鏡・防毒マスク等)を着用し、風上で作業をする。保護具については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照の事。
- 2) 多量の場合、人を安全な芭蕉に退避させ、風上から作業する。

3) 漏出した場所周囲には、ロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。

4) 必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

露出物を河川や下水に直接流してはいけない。

除去方法

少量の場合、吸着剤（土・砂・ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、大量の水で洗い流す。多量に漏出した場合、漏出液を盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。露出物の上をむやみに歩かない。

火花を発生しない安全な用具を使用する。回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密閉しておく。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

1) 取扱う場合は、保護具着用のこと。保護具については、「8. ばく露防止及び保護措置」を参照の事。

技術的対策

- 1) 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 2) 屋内作業場の場合、発生源を密閉化又は局所排気装置を設置する。

注意事項

- 1) 火気厳禁。可燃物等を付近に置かないようにする。
- 2) 保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、眼及び皮膚への接触を避ける。

安全取扱い注意事項

- 1) 有毒な蒸気の発生の恐れがある為、適切な呼吸用保護具を着用して吸い込まないように注意する。作業場の換気を十分行う。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 2) 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、できるだけ蒸気の発生・発散を抑える。容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の粗暴な取扱いはしない。

保管

- 1) 直射日光を避け、通気の良い暗所で容器を密閉し保管する。
- 2) 火気厳禁。高温物、スパーク、火炎を避ける。
- 3) その他消防法など法令の定めるところに従う。
- 4) 子供の手の届かない場所に保管する。

安全な容器包装材料

製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置

《ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル のデータ》

厚生労働省（管理濃度） 設定されていない

日本産業衛生学会（許容濃度）	記載無し(2014年度)
ACGIH（TWA）	記載無し(2010年度)
《エタノールのデータ》	
厚生労働省（管理濃度）	設定されていない
日本産業衛生学会（許容濃度）	記載なし(2009年度)
ACGIH（STEL）	1000ppm(2009年度)
《メタノールのデータ》	
厚生労働省（管理濃度）	200ppm
日本産業衛生学会（許容濃度）	260mg/m ³ (2009年度)
ACGIH（TWA）	200ppm(2009年度)

設備対策

屋内使用の場合、局所排気装置の設置する。又は、工程のクローズド化。取扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

保護眼鏡

ゴーグル

保護手袋

不浸透性（耐薬品、耐油、耐溶剤）保護手袋

呼吸用保護具

有機溶剤用防毒マスク、農業用マスク、簡易マスク

保護衣

長袖、長ズボン不浸透性防除衣、長靴

9. 物理的及び化学的性質

形状	液体
色	淡黄色澄明
臭い	アルコール臭
沸点	
《エタノールのデータ》	
78.3℃	
《メタノールのデータ》	
64.7℃	
動粘度	
18m ² /s (30℃)	
pH	
6.5-7.2(1%水溶液)	
溶解度	

水溶解性

水溶性

その他の物理／化学的性質

比重

0.9962(30℃)

引火点

30℃(タグ密閉式)

爆発限界(下限成分)

《エタノールのデータ》

3.3vol%

爆発限界(上限成分)

《メタノールのデータ》

36.5vol%

10. 安定性及び反応性

安定性・反応性

通常の取扱い条件では安定。自己反応性、水との反応性なし。

避けるべき物質

情報なし

11. 有害性情報

有害性情報

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分1のメタノール(中枢神経系、視覚器、全身毒性)を1%以上10%未満含有するため、区分2(中枢神経系、視覚器、全身毒性)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)のエタノールを10%以上含有すること、区分1(中枢神経系、視覚器)のメタノールを1%以上10%未満含有すること、区分2(心血管系、肝臓)のポリオキシエチレンノニルフェニルエーテルを10%以上含有することから、区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系、視覚器、心血管系)とした。

皮膚刺激性

ウキ：ごく軽度(区分外)

眼刺激性

ウキ：強度(区分1)

感作性

皮膚感作性(モルモット)

陰性

Ames試験

陰性

急性経口毒性

LD50(ラット)：>5000mg/kg

急性経皮毒性

LD50 (ラット) : >5000mg/kg

急性吸入毒性

LD50 (ラット) : データなし

発ガン性試験

発がん性：区分1 Aのエタノールを0.1%以上含有するので、区分1 Aとした。

繁殖毒性試験

生殖毒性：区分1 Aのエタノールを0.1%以上含有するので、区分1 Aとした。

12. 環境影響情報

環境影響情報

水生環境有害性（急性）：下記のデータから区分2とした。

水生環境有害性（長期間）：水生毒性データ及び構成成分のほとんどが生分解性がないことから区分2とした。

急性魚毒性

LC50 (コイ) : 6.8mg/L (96hr)

ミジンコ遊泳阻害毒性

EC50 : 11mg/L (48hr)

藻類生長阻害毒性

EbC50 : 47mg/L (72hr)

13. 廃棄上の注意

廃棄上の注意

- 1) 保護具を着用すること。保護具については、「8. ばく露防止及び保護措置」を参照の事。
- 2) 内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。
焼却する場合、関連法規・法令を順守する。容器は洗浄し、内容物を除去後廃棄する。
- 3) 廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

輸送上の注意

荷役中の取扱いは、慎重丁寧に行い、手かぎの使用・転倒・落下・衝撃等により容器を傷め、内容物を飛散させてはならない。

輸送中は、直射日光や雨水の浸透を防止するため、被覆すると共に、容器を動揺、摩擦、転倒、落下が起こらないように積載・輸送する。

積荷の高さは、3 m以下とし、消防法第1類、第6類、高圧ガスとの混載を避ける。

消火器、保護具を携帯する。

国連分類(クラス)

3 (引火性液体類)
 容器等級
 III
 国連番号-品名
 1993 (その他の引火性液体 (他の危険性を有しないもの))
 海洋汚染物質
 該当

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
 メタノール (政令番号：560)
 エタノール (政令番号：61)
 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)
 メタノール (政令番号：560)
 エタノール (政令番号：61)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体 (法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) : 第1種指定化学物質 (法第2条第2項、施行令第1条別表第1)
 ポリ (オキシエチレン) = ノニルフェニルエーテル (政令番号：410)

農薬取締法 : 該当

16. その他の情報

引用文献

1) エタノール、メタノールのGHS分類：N I T E (政府によるGHS分類結果)

記載内容は現時点で入手できた資料、情報データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の実施を前提としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、利用してください。

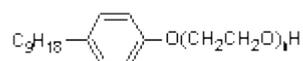
中毒したときの緊急連絡先

公益財団法人 日本中毒情報センター (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)		
中毒110番 一般市民専用電話	(大阪)	072-727-2499 (情報料無料)
		365日24時間対応
	(つくば)	029-852-9999 (情報料無料)
		365日9~21時対応
医療機関専用有料電話	(大阪)	072-726-9923 (1件2000円)
		365日24時間対応

(つくば) 029-851-9999 (1件2000円)

365日9~21時対応

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、
情報料1件につき2,000円を徴収します。



CAS 番号 : 9016-45-9

化学名 : ホ^oリオキシエチレンノニルフェニルエーテル